

# 業 務 状 況 説 明 書

(令和3年4月1日～令和3年9月30日)

## 1 事業の概要

令和3年度上半期の有収水量は802,657m<sup>3</sup>となり、令和2年度の下半期と比較すると14,693m<sup>3</sup>減少しました。また、令和2年度の上半期と比較した場合は、12,954m<sup>3</sup>の減少となりました。

また、令和3年9月30日現在の水洗化人口は17,723人となり、令和3年3月31日現在と比較すると138人増加し、令和2年9月30日現在と比較すると110人増加しました。

## 2 経理の状況

### (1) 収益的収入及び支出の経理の状況

令和3年度上半期の収益的収入の調定済額は334,234,954円(税込み)となり、予算現額に対する執行率は39.3%です。また、長期前受金戻入を除いた場合の予算現額に対する執行率は、61.1%となります。

令和3年度上半期の収益的支出の支出負担行為済額は143,000,559円(税込み)となり、予算現額に対する執行率は18.1%です。また、減価償却費を除いた場合の予算現額に対する執行率は、40.9%となります。

### (2) 資本的収入及び支出の経理の状況

令和3年度上半期の資本的収入の調定済額は3,084,170円(税込み)となり、予算現額に対する執行率は1.3%です。

令和3年度上半期の資本的支出の支出負担行為済額は192,818,945円(税込み)となり、予算現額に対する執行率は35.0%です。

## 3 令和2年度の決算の状況

令和2年度の下水道事業会計の収益的収支の決算額(税抜き)は、下水道事業収益が811,851,202円、下水道事業費用が706,175,290円、当年度純利益が105,675,912円となり、当年度未処分利益剰余金は当年度純利益と同額の105,675,912円となりました。なお、下水道事業収益のうち下水道使用料は、227,585,723円でした。

令和2年度の資本的収支の決算額(税込み)は、資本的収入が212,474,020円、資本的支出が469,825,559円、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額は257,351,539円となり、この資本的収入額が資本的支出額に対

して不足する額は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額6,291,585円、引継金41,684,680円、当年度分損益勘定留保資金135,952,381円及び当年度利益剰余金処分額57,722,893円で補填したほか、なお不足する額15,700,000円（未払相当分）については、令和2年度同意の企業債の未発行分15,700,000円をもって、翌年度に措置することとしました。

#### (1) 下水道使用料の状況

令和2年度の年間有収水量は1,632,961 $\text{m}^3$ で、令和元年度と比較すると45,653 $\text{m}^3$ 増加しました。

また、下水道使用料の収入額は税抜きで227,585,723円、税込みで250,344,290円となり、令和元年度の税込みの下水道使用料と比較すると税込みベースで32,915,760円の増額となりましたが、これは、年間有収水量が増加したことによるほか、令和2年度から下水道事業に地方公営企業法の財務規定等を適用するに当たって、令和元年度に打切り決算を実施したことの反動が生じたことによるものです。

#### (2) 主な建設改良工事等の状況

##### ・ 汚水枝線整備工事

汚水管きよを0.6km布設し、その結果、汚水管きよの総延長は、民間事業者からの帰属分を合わせて、108.6kmになりました。

##### ・ 大池調整池整備工事

文違地先に設置した大池調整池の整備工事を行い、大池排水区の浸水被害の防止を図りました。

##### ・ マンホール蓋交換工事

老朽化したマンホール蓋42枚を新品に交換し、施設の長寿命化を図りました。

##### ・ 汚水管きよの点検・調査

令和元年度に策定したストックマネジメント計画に基づき、汚水管きよ5.8kmについて老朽化の点検・調査を行いました。